

寒い冬が終わり、暖かい春の日ざしが差し込むようになってきました。新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、従来のような交流活動ができるようになりました。たくさんの方での活動は久しぶりで、どのようにしていくのか試行錯誤しながらではありましたが、みんなとまた一緒にリズムをしたり遊ぶことができるのがうれしい一年となりました。

あゆみ保育園(安来市) 新園舎完成記念事業



あゆみ保育園 新園舎

7月10日 ごうぎん文化振興財団助成事業の協賛をいただき、園舎完成記念事業として、東京より『民族歌舞団 荒馬座』のみなさんをお呼びして、新園舎で公演を行いました。荒馬座が山陰初上陸ということもあり、あいにくの雨の中ではありますが、午前、午後の2回公演は園内外から各100名の方がいらしてくださいました。ダイナミックな踊りや演奏を楽しみ、みんな元気をもらいました。



合同リズムより

昨年度は出雲・石見部は密を避けるために、時間帯や会場の使い方を半分に分けるなど工夫をしながらの合同リズムでしたが、今年度は9ヵ園一緒にリズムを行いました。また1月は益田の今福太鼓、2月は弦楽器のアンサンブル・ダルセーニョの皆さんにきてもらって演奏を聞きました。掛け声をかけたり一緒に歌うことで会場全体で楽しむことができました。

また今年度は松江部、出雲石見部の園長がお互いの合同リズムを見に行く機会を持ちました。年齢会での話だけでは分からない様子を見ることができ、お互いの共通理解にもつながったように思います。それぞれのいいところを取り入れたり、課題を見つけながら意見交換ができました。



9月30日、10月1日の二日間にわたって、職員の研修会を開催しました。今回はイスラエル出身で現在埼玉在住のダニー・ネフセタイさんに平和と脱原発について、山口平八さんに各年齢の基本的な発達についてお話しいただきました。

ダニーさんのお話を聞いて間もなく、イスラエルのガザ地区への攻撃が始まりました。長い歴史の中でそれぞれの守りたいものや正義があり、平和に過ごすということがどれだけ難しく、尊いものであるのかを痛感しました。

お二人の話を聞いて子どもたちが健やかに育つために、今大事にしたいことについて考えさせられた研修となりました。

戦闘機を飛ばすのにかかる費用、防衛費、F35戦闘機の環境汚染等、数字で見ると驚くことが多かった。ダニーさんの実体験や写真を見てわかりやすく世界の問題を身近に感じる機会となった。きっかけがなければなかなか目を向けられない問題も多い中、世界の問題、人権など、次世代の子どもたちに伝えられる立場である私たちがしっかり声に出し、伝えられる時に伝えていく必要があるのだと強く感じた。

各年齢ごとのお子さんを実際に見ながらの話はとても分かりやすく、なるほどな〜と思うことが多かったです。遊びこむこと、生活習慣を整えること、手をつかうことの大切さを知ることができました。

「子どもは教えられて育つのではなく、自ら育つ力を持っている」という言葉が印象に残り、子どもたちの自然な反射や動きを保障することの大切さを感じました。自然な動きを引き出していけるように関わっていきたいと思いました。

参加者の感想より

「原発、差別、LGBTQ、気候変動、環境問題等すべて人権が無視されている。」本当にその通りだと感じました。直接私たちができることはあまりないかもしれないけれど、選挙で投票するなど、かわっていけるところで参加していき、よく見てよく話し、目をそらさずに過ごしていきたいです。

普段の保育と照らし合わせながら聞くことができた。赤ちゃんの自然、意欲を引き出す保育ができていたのか、手をださなくてもいいところで手を出してしまっていたのではないかと反省するところも多かった。



実際に子どもの身体に触れながら、緊張の取り方や発達などのお話をされました